

## 大島コミセン地区地域づくりの会創世期の思い出

六ッ野 荒井文雄

大島コミセン地区地域づくりの会は昭和58年3月に発足し、平成29年で35周年を迎えました。現在は、大島コミュニティセンターの運営も行ない活発な活動が行われ、その活動は市内でもトップクラスです。

私は、昭和58年の発足当時から役員を務めたので創世期の主な活動状況の思い出を記したいと思います。

地域づくりの会が発足する1年前の昭和57年5月から「大島中学区地域づくりについての懇談会」が開催され、各地域から1名参加し、地域づくりの会発足の必要性について行政と協議が行われました。その結果、発足に向け「大島中学区地域づくり準備会」などの委員会が設置され、設立の準備が進められました。

名称についても度重なる協議がなされ、初めは、「大島中学区コミュニティセンター地域づくりの会」という名前が候補にあげられました。しかし、この名称は長すぎるので簡単にしてほしいとの要請があり市の教育委員会の指導を受け、委員会で協議した結果、昭和58年

発足当時の名称は「大島中学区地域づくりの会」となりました。昭和62年4月に現在の「大島コミセン地区地域づくりの会」に改名し、現在に至っています。

創世期の役員会は、ウィークディの午後1時からの開催でした。現役での役員の方も何人かいましたが、お互いに都合をつけ出席したことをよく覚えています。

役員会の内容は、各地区長の(当時は、区長制度であった)活動報告と運営上の問題点などについて協議しました。会議は1~2時間で終了し、その後全員で飲食店「静香」で懇親会を3時間行いました。この懇親会は役員会開催ごと毎回行いました。会費は3,000円だったと覚えています。

創世期の活動を、思い出すたびに大島コミセン地区地域づくりの会と大島コミュニティセンターの市内トップクラスの活動に大変驚くと同時に関係者の皆様から敬意を表する次第です。

## 「互助精神」の伝承

東石川 大山カ敬

頂く 東石川自治会は地域づくりの会発足後3年、昭和61年に編入されました。当時の当自治会員の居住割合が大中と一中学区で拮抗していたための様です。その後、平成20年に従来地盤の東石川2丁目・3丁目に旧茨交団地を統合。市役所を中心に頂く地勢を当自治会の特徴として歴史を重ね現在に至っています。

最大の思い出は平成23年3月11日の東日本大震災。当時の市役所煙突の破断倒壊および地面の波打ち等々を目撃、地震の大きさを嫌でも認識しました。その時の当自治会員の互助精神の発露…断水には井戸保有先から自発的に水の提供…避難所指定外ながら当自治会館前に子連れの若い母親達が避難参集の現実に会館を臨時避難所に開放決断。次に役員総出で炊出実施、その資機材は近隣会員の無償提供。避難場所提供は3日間で延べ250人強に達しました。この互助精神は永く記憶に留め伝承したいと思います。

## 人と人との繋がり

東大島 石原澄雄

ふれあい発行100号を迎え、おめでとうございます。

第1号発行の昭和58年から昭和60年代にかけて、車社会や情報化、国際化が進み、右肩上がりの経済情勢だった記憶があります。

時代を映す暮らしの様子では、葬式は各家庭で行われていましたし、東大島地域内には、畑も点在していました。

現在は、畑は少し残っているものの、ほとんどの畑は宅地化されて家が建てられています。都市化が急速に進んでいます。高齢者の方も増えています。自治会が実施している夏祭りや運動会、敬老会などへの参加者からは、久しぶりに地域内の方と話ができたと話聞く機会も多くなり、人と人との繋がりが薄くなっていることを実感します。ふれあい200号の発行時には、どんな地域社会になっているのでしょうか。

## 「ふれあい」を広める芸能発表会

文化部会 小野 徳栄

昭和58年、大島中学区地域づくりの会設立を記念した第一回芸術文化祭演芸大会が開催されてから35年、いろいろと変革があり現在の芸能発表会に発展しました。

当時は、コミセンまつりと同時に研修室で行っていました。平成17年は出演者の要望により、実施時期を大島コミセンまつりと別にして行いました。平成19年度は創立25周年を記念し、会場をワークプラザ勝田にしました。以後継続して同会場で実施しています。

小学生からお年寄りまで参加して、本当の芸能発表会の目的である住民との交流ができ、特に私たちに元気をくれた98歳磯野志志さんの熱演は印象的でした。

今年度の創立35年度を記念した芸能発表会は、これまでの感謝をこめて豪華景品の当たる大抽選会を実施しました。

芸能発表会が大島コミセンを利用した地域の人々とのふれあいのツールとして、積極的に利用・活動され、それぞれの人達の生きがいづくりに生かされればうれしく思います。

## 社会状況に適合した地域づくり

はしかべ 大塚道夫

私のはしかべに住み始めたのは昭和60年で、地域づくりの会創立の3年後でした。その頃の会員は若い人が多く、子供会も現在の2倍近い140人を超えていました。現在は若い世代も新たに住民になってはいますが、世の中と同様高齢化が進んでいます。35年という歳月の間に色々な出来事があり、社会状況も大きく変化し住民の考え方も多様になっています。35年前にはパソコンはまだ普及しておらず、携帯・スマホは無く、インターネットもありませんでした。これらが普通にある現在と、AIが生活の隅々に入ってくるこれからの社会状況に適合した自治会の役割と活動内容や形態を模索しているところです。安心して暮らせる住みやすい地域づくりという目的は変わりませんが、そのはっきりとした姿はまだ見えていません。